

新潟大学農学部 Q&A

【入試について】

Q. 農学部の入試方法をわかりやすく教えてください。

A. 本学部で実施している選抜方法は以下のとおりです。

①一般選抜

- ・ 前期日程（共通テスト+個別学力検査）
- ・ 後期日程（共通テスト+面接）

②学校推薦型選抜

- ・ I 型（小論文+面接+書類審査）※プログラム別の募集
- ・ II 型（共通テスト+面接+書類審査）

募集人数や試験内容、配点や出願条件等は、農学部 HP の「受験生の皆様へ」よりご確認ください。

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/examinee>

Q. 普通科で推薦をもらえることはできますか。

A. 本学部の学校推薦型選抜には、I 型と II 型の 2 種類があります。

- ・ I 型は、出願要件として特定の学科の指定があり、指定された学科に在籍している生徒のみが出願可能です。
- ・ II 型は学科の指定がなく、普通科など幅広い学科の生徒が出願可能です。

推薦を受けられるかどうかは、在籍校の推薦基準によって異なりますので、詳細は各高校でご確認ください。

なお、詳細は新潟大学 HP の「入試情報>学部入試>学校推薦型選抜」より募集要項等をご確認ください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/admissions/faculty/recommendation/>

Q. 学校推薦型選抜推薦 II 型の提出書類で推薦書の提出はありますか。

A. 推薦書の提出は必要です。その他の出願書類等については、新潟大学 HP の「入試情報>学部入試>学校推薦型選抜」よりご確認ください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/admissions/faculty/recommendation/>

Q. 学校推薦型選抜入試のおすすめの参考書などがありますか。

A. まず、農学部と其中で志望するプログラムのアドミッションポリシーをよく読んでください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/admissions/faculty/policy/agriculture/>

ここに、どのような学生に入学してほしいか書かれています。この点をよく理解してから高校の先生に相談することをお勧めします。

農学部 HP には3年分の過去問題が掲載されておりますので、ご活用ください。

農学部 HP「受験生の皆さまへ>入試資料について」

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/examinee/document>

Q. 推薦入試と一般入試も一緒に受けることは可能ですか。

A. 学校推薦型選抜Ⅰ型又はⅡ型と一般選抜を併願することは可能です。

【授業について】

Q. 普段の授業内容について教えてください。

A. 1年次には、主に教養教育科目を履修します。具体的には、英語やその他の外国語、体育実技、情報リテラシーなど、大学での学びの基礎となる科目です。また、グループワークを通じて、大学での学習方法を身につける授業や、農学の基本を学ぶ科目もあります。

プログラム分属が行われた後は、専門科目や実験・実習など、より専門的な内容の授業が始まります。

Q. 実験などの実習はどのくらいの頻度で行われますか。

A. 1年次には、企業や研究機関等で実習や見学を行う授業を設けています。

主な実習は2年次以降のプログラム所属後に始まります。プログラムごとに期間や頻度は異なりますが、毎日実験実習の授業がある場合もあります。

Q. 農学部生物資源科学プログラムの具体的なカリキュラムを教えてください。

A. 生物資源科学プログラムでは、「食料・資源経済学」「植物資源科学」「動物資源科学」の3つの分野について幅広く学ぶことができます。具体的な授業科目などは、生物資源科学 HP を見てください。

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs/seibutsu-shigen>

Q. 食中毒について学べますか。

A. 食中毒を含む食品の安全・衛生について学べる授業もあり、選択することで履修が可能です。

Q. 企業との交流もあるとホームページで拝見しましたが、具体的にどのような取り組みを行なっているのでしょうか。

A. 入学直後の1年生は、新潟県内の自然に触れ、地域に根ざした研究や企業活動、また、農業の現場を見て、地域が抱える問題を発見することを目的とした実習が行われます。
また、2～3年生では、希望すれば夏休みの2～3週間、民間企業や国公立の事業所・研究所の仕事を体験するインターンシップ(学外での就業体験)を行うことができます。

Q. 学費は年間どのくらいかかりますか。

A. 正規生の授業料は、前期後期で各267,900円(年間535,800円)です。在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

また、授業料の納付が困難な学生は、一定の条件を満たすことで、授業料免除制度を利用することができます。

授業料や免除制度の条件等の詳細は、新潟大学 HP の「学生生活・就職＞学費・経済支援制度＞学費」よりご確認ください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/campus/economic/tuition/>

授業料以外の出費(教科書代や下宿生の生活費など)については、大学案内2026の57-59ページを参考にしてください。

<https://www.niigata-u.ac.jp/university/pr/publications/guide/>

【学校生活について】

Q. 最初の友達はどこでできますか。

A. 入学時には、農学部主催のガイダンスを開催しています。ガイダンスでは履修方法や大学生活に関する説明が行われ、学生同士の交流のきっかけとなっています。

さらに、4月には新潟大学生協主催の新入生向けのイベントや、キャンパス全体で部活動やサークルの勧誘が行われます。これらを通じて、学部や学年を超えたつながりが生まれ、学生は幅広い人間関係を築きながら、充実した大学生活をスタートさせることができます。

Q. 新潟大学の農学部は校外学習が多いと思いますが、実施場所(新通ステーションや村松ステーション)までの行き方を教えてください。

A. 授業の一環として行う場合は、大学キャンパスから一括してバスなどで移動します。

【研究内容について】

Q. 農学部ではどのような分野を研究しているのでしょうか。

A. 農学部では、食料・環境・生命・地域社会など、私たちの暮らしに密接した課題に対する幅広い分野で研究を行っています。

Q. 新潟大学理学部生物学プログラムと農学部との違いは何ですか。

A. 農学とは、食料・環境・生命・地域社会など、私たちの暮らしに密接した課題を扱う応用的な学問です。農学部では農業や食品、環境保全、生物資源、防災など、社会に役立つ知識と技術を学びます。

一方、理学部生物学プログラムは、生命の仕組みや自然界の法則を探る、純粋な科学的探究が中心です。細胞、遺伝子、進化、生態系など、生命現象の基礎的な理解を深めます。

各学部は以下のような学生におすすめです。

- ・農学部：社会課題の解決に関心がある人、地域や自然と関わる仕事をしたい人
- ・理学部：生命の仕組みを深く知りたい人、研究や理論に興味がある人

理学部生物学プログラムの詳細は以下理学部 HP に記載されていますので、ご覧ください。

<https://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/program/bio.html>

Q. 栄養面に重きを置いている研究室はありますか。メジャーマイナー制度で栄養にかかわるには何学部をマイナーとしたらいいのでしょうか。

A. 栄養学を扱っている研究室はあります。ただし、新潟大学では、農学部や他学部でも栄養士・管理栄養士の資格を取得できるコースはありませんのでご注意ください。

人間以外を対象にしている家畜栄養学・植物栄養学といった分野も研究できます。

マイナー制度は例えば保健学分野などは候補になります。なお、マイナー・プログラムの履修に関しては、アドバイザーによる相談も受け付けています。詳細は、新潟大学全学分野横断創生プログラムHPをご確認ください。

<https://www.iess.niigata-u.ac.jp/niceprogram/aa.html>

Q. 今も城教授の研究室では玄米米粉パンなどの穀類の外皮を使った機能性食品の開発は行われていますか。

また、他の研究室で米粉の研究をしているところはあるですか。

A. 城教授の研究室では現在も玄米米粉パンや玄米麴の機能性に関する研究を行なっています。

Q. 私は動物に関する研究をしたいと思っています。特に野生動物について、どのような研究が行われていますか。また、就職先はどのようなところがありますか。

A. 野生動物に関しては、例えば以下のような研究等が行われています。

- ・家畜・野生動物におけるゲノム科学的研究
- ・猛禽類の生育環境に関する研究
- ・希少動物の生息地保全とその順応的管理等

また、就職先は大学院への進学、公務員をはじめ、動物に関する就職先として、家畜改良関係、環境アセスメント、自然保護 NPO、グリーンインフラ関連等があります。

Q. 過去の卒業論文にはどのようなものがありますか。

A. 農学に関する幅広い分野で種々の卒業研究が行われています。例えば、バイオテクノロジーによる花卉園芸植物の増殖および育種、食品の美味しさや健康増進作用の向上、作物の遺伝子に着目した研究、花粉の出ない無花粉スギの研究、地質調査自動化に向けた研究等が行われています。

詳細は、農学部はHPの「プログラム紹介＞（各プログラム）＞特色ある研究」よりご確認ください。

<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/programs>

【その他】

Q. 新潟大学の農学部にはかない魅力は何ですか。

A. 新潟県の特徴として、豊かな自然環境があるのに加え、様々な農産物を生産しています。また、多くの食品関連企業があり、日本の代表的な「食づくり地域」になっており、農学の発展にとって理想的な環境にあります。

また本学部では、生命現象の解明と利用、食品の機能性や加工技術、農林畜産物の生産と流通、生態系の解明や環境の保全、農業のDX化等様々な分野に関わっており、恵まれた環境の中で先端的な教育と研究を実施していることが本学部ならではの強みです。

Q. 農学部に入ってよかったことはなんですか。

A. 2人の先輩に聞いてみました。

- ・新潟大農学部には5つのプログラムがあり、入学後に各プログラムの内容を広く学んでから希望配属先を選択します。学びたいことが決まっている方はもちろん、まだどんな専攻に進みたいか決めかねている方も、入学後に各プログラムの内容を学び、よく考えてから専攻を選ぶことができる点が魅力だと思います。
- ・バイオテクノロジーから自然環境まで、幅広い分野を学ぶことが農学部の強みだと思います。また総合大学のため他学部の人とも関わることができます。勉強だけでなく課外活動にも力を入れることができるので、充実した大学生活を送ることができます。

Q. 大学院へ進学しなくても資格取得はできるのでしょうか。

- A. 学部生でも、関連科目の単位を修得することで資格の取得が可能です。
なお、プログラムごとに取得可能な資格が異なりますのでご注意ください。
詳細は農学部 HP の「就職情報＞取得可能な免許・資格」よりご確認ください。
<https://www.agr.niigata-u.ac.jp/recruit-index>

Q. 私は農業技術の研究などを考えているのですが、農学部卒業後の進路は具体的にどのような道があるのでしょうか。

- A. 近年の卒業生の進路は、大学院への進学が約4～5割を占めており、研究をさらに深める学生が多く見られます。次いで、公務員としての就職が約2割弱、一般企業への就職が約3～4割となっています。一般企業への就職先は多岐にわたり、製薬、食品、建設、情報通信系など、幅広い業種での実績があります。
本学部の卒業生は専門性を活かしながら、社会のさまざまな分野で活躍しています。

Q. 農学部のパンフレットに、樹木医補の資格を取ることができると記載されていたのですが、実際に取っている方はいるのでしょうか。

- A. 樹木医補とは樹木医の資格審査時に優遇措置のある資格です。樹木医補資格養成機関として認定を受けた大学等において指定分野の科目を履修・取得し、これを卒業した方が、資格認定に必要な書類を作成し申請することで、認定を受けることができます。
新潟大学農学部農学科は樹木医補資格養成機関として認定されており、毎年資格取得者がいます。